

専念寺通信

専念寺通信

六月号 (NO. 94)

今年も、早いもので、もう、一年の半分に近づいて参りました。風薫る五月から、梅雨の六月へ、台風とかさなって、今年は雨量の多い梅雨になりそうです。『通信』六月号をお届けします。

☆雨の施餓鬼会

晴天に恵まれた昨年とはうってかわって、今年のお施餓鬼は、朝から強い雨に見舞われました。私共は数日前から天気予報を気にかけて、当日晴れますようにと願いましたが、あいにく朝からかなり強い雨の降る天候になりました。けれど、受付開始の30分も前から、檀家さんがひとり、またひとりとおいでになり、ひとときは受付に長い列のできるほどの盛況でした。傘を差し、花束を持ち、熱心におでかけくださる皆さまのお気持ちに頭のさがる思いが致しました。203名の参列者をお迎えて、11時、大玄関の喚鐘が打ち鳴らされ、当山住職と浄土宗東京教区の住職6人が入場し、読経が始まりました。そのころには、本堂内もテント席も書院も、檀家さまでいっぱいとなりました。住職が、塔婆建立の皆さまのお名前二百数十名を順に読み上げます頃には、雨足も弱くなり、「同唱十念」を心をひとつにして唱え、皆さまが塔婆を手にそれぞれの墓所へ向かう頃には、雨もほとんどやみました。

今年も、私共の初孫を、受付で、皆さまにお目見えさせていただきました。公の行事に私事を持ち出しますことに、内心申しわけない気持ちがございましたが、法要の終わったあとも、檀家さまが穏やかでやさしい言葉をかけて下さり、家族そろって、本当に有難く、うれしい思いに満たされました。改めて御礼申しあげます。

☆人間の驕り

私たち人間はこの地球で農業をし、漁業をし、狩猟し、地下の資源を掘り、工場でさまざまなものを作り、河を堰き止め、山を削り、あたかも自然を「支配」しているかのようにふるまってきました。しかし、ここ数年で「地球温暖化」という言葉に象徴される、地球規模の深刻な問題があらわになってきました。北極の氷の溶出、海水面の上昇により、沈んでしまう国のあることが報道され、今年に入ってからにはビルマの大型突風と中国の巨大地震のように、それぞれ被害者が数十万人単位の地球変動が起きました。地下資源の不足が影響するさまざまな物の値上げ、早ばつ被害による農作物の世界的な不作による影響、一切雨の降らない地域ができるかと思うと、かつてない大量の雨でひとつの町が水没する被害も出てきています。自然は私たちによって「支配」されたりなどしないのです。現在、宇宙を「支配」しようと各国が限られた資源を投入しています。一日100円以下の生活をしている人たちの国が多くある現在、本当に「開発」しなければならないのは宇宙でしょうか。内戦を含め、世界の戦争もなくなりません。「支配」欲に駆られ、戦争をやめない私たち人間の愚かさについて、私たちはいまこそ考えなければならないのではないのでしょうか。

平成20年6月1日

大黒

